

JGFA NEWS

FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING

FIRST TREE-FRIENDLY ISSUE

伊藤義明さんインタビュー

Yoshiaki Ito Interview

イベントレポート

Event Reports

記録報告

New Japan/World Records

カジキのタグ&リリース報告

Blue Marlin Recapture

ネット経由申請

Record Application via Web

電子配信スタート記念号です！

長年の懸案であった脱ペーパーの一環として、今号からは会員の皆様へメール経由で配信を差し上げる形としました。また、ウェブサイト上にアーカイブも作る予定ですので、適切な大きさの画面を備えた端末さえあれば、バックナンバーを見ることも、以前よりずっと簡単になります。

ジャパンゲームフィッシュ協会はフルタイムスタッフを一新し、パートタイムスタッフも採用して、さまざまな領域において新しいアプローチを採用予定です。各種お支払い方法や申請方法の現代化に始まり、各種トーナメントやコンテストのフォーマットも見直されるなど、さまざまな分野におけるアップデートが起こってくるはずです。ご期待ください。

IGFAも、フロリダ州デニアビーチにあった協会所有の不動産を売却して資金プールを作り（既存の建物と土地はバスプロショップス／キャベラスという大規模アウトドア店およびホテルになるそうです）、組織の合理化とおよび世界規模の目標達成を目指し真剣に取り組んでいます。私たち2団体は、釣りと資源、魚と自然に関する理念を完全に共有していますが、その両者がいま課題としているのがアジリティ、組織の機敏さです。釣りと魚を取り巻く多様性に、時宜にかなう現代的なアプローチですばやく対応できる能力を備えること。新世代アングラータちにも、倫理観と公平性のある釣りを楽しんでもらうこと。私たちのやるべきことは、まだまだたくさんあります。ご協力をよろしくお願い致します。

（表紙写真提供：椎名 幹）



IGFA & JGFAジュニア&ファミリー釣り教室を開催!

JGFAが推進するジュニアアングラー育成プログラムの一環として、子供たちに自然環境や魚の大切さ、釣りの楽しさ、ルールやマナーなどを肌で感じ取ってもらい、次代を担う素晴らしいアングラーに成長してもらうことを期待してこの釣り教室を開催しました。ご家族と一緒に楽しむことにより、より釣りに親しみやすく、皆様の思い出に残る体験をご提供することも目論みました。

- 日 時: 2023年10月1日(日) 10:00~15:00
- 場 所: 「開成水辺フォレストスプリングス」(神奈川県足柄上郡開成町)
- 主 催: NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会(JGFA)
- 共 催: インターナショナル・ゲームフィッシュ協会(IGFA)
- 後 援: (公財)日本釣振興会、(一社)日本釣用品工業会、日本釣りジャーナリスト協議会
- 協 力: 開成水辺フォレストスプリングス、(株)スミス
- 協賛(敬称略・五十音順)
(株)シマノ、(株)上州屋、(株)スミス、(株)バリバス、マルキュー(株)
- 参加者 12家族 31名
- インストラクター&スタッフ(敬称略・五十音順)
磯野寛之(スミス)、市原岳洋、井上拓也、小笠原健太(スミス)、加藤靖暁、金子新、刈和野匠、岸上和典、木村亮、齋藤吉平(立花学園高校F.C.)、杉本晋之介、玉越和夫(スミス)、野村晶春(立花学園高校F.C.)、東知憲、福永雄海、三島裕一、六郷雅弘(立花学園高校F.C.)

この教室は、さまざまな分野から経験豊かなアングラーが集まるJGFAの利点を活かし、他に類例のないものとなっています。以下がその特徴です。

・世界でジュニアアングラーの育成を目指す「IGFA(インターナショナル・ゲームフィッシュ協会)」のプログラムを使用して共催。

・体験が難しいルアーフィッシングを、釣りに精通したアングラーがほぼ1家族に1名つき、糸の結び方からキャッチまでをフォローし丁寧にサポート。今回は立花学園高校F.C.の協力により高校生インストラクターも参加。

・釣り方だけでなく、マナー、リリースの正しい方法やバックリミット、釣り場の環境保全についてもレクチャー。

・メーカー様の協力を得て、正しい知識、新しい情報、楽しい経験を提供。

最初に(株)スミスのインストラクター、磯野さんがキャストイングと釣り方を実演・指導し、ポンドへ散らばっていきます。最初は不慣れだったキャストイングもみるみるうちに上手くなり、初めての釣りに笑顔と歓声がこぼれます。お子様より保護者の方が先に釣って「ごめ〜ん」という一幕もありました。

閉会式においては本日釣りのルールやマナーを学んだ証として、IGFAのフィッシングパスポートと修了証がジュニア1人1人へと手渡され、JGFA東委員が「皆さんも世界の釣り仲間の一員です」と締めくくりました。

お笑いタレントで釣り大好き三島裕一さんが、大漁旗デザインのスーツ?!で一発ギャグを皆さんにプレゼントするなど、学びと楽しさが充実した釣り教室になったと思います。ご後援いただいた団体やご協賛スポンサーの皆様、そして会場をご提供いただきました開成水辺フォレストスプリング様、ボランティアでインストラクターをしていただいた皆さまに心から御礼申し上げます。来年はさらに楽しいイベントになるよう企画中です。ぜひこれからも釣りに親しんでくれたら嬉しく思います。

YouTubeでも当日の様子をご覧くださいませ。
<https://youtu.be/TekVHPlp-3Y>



釣り場とルールの説明、インストラクターの紹介とグループ分けを発表



インストラクターから真剣に教わります



釣れました!あれ?お母さんも釣ってるね!



磯野インストラクターによるキャストイングの説明



釣りが終わって閉会式。ルールやマナー、環境について学んだ証としてIGFAより「フィッシング・パスポート」と「認定証」が手渡されました



最後は全員集合!これからも釣り仲間として仲良くしてくださいね

JGFA沖釣りサーキット2023

沖釣りもIGFAルールを適用し、結果主義に傾かずフェアで楽しい釣りをしませんか、
という服部善郎名人(JGFA名誉会員・故人)の呼びかけで2005年から始まったのがJGFA沖釣りサーキット。
コロナウイルスの影響も少なくなり、今年は5戦が計画されました。



【当日の概況】

天候は曇り時々晴れ、南風がたまに強く吹くも5月の釣りやすいコンディションの一日。船長からサイマキの付け方を教えて頂き、いざ大貫沖まで出航！ 途中いろいろとハプニングがありましたが、無事に釣り場に到着。水深約20m、皆さん合図とともに一斉にスタートです！

すると開始早々ワニゴチの良型がヒット！「ワニゴチか～」なんて言いつつもファーストフィッシュはやはり嬉しい。すると他のメンバーにもアタリが。今日は爆釣か!?と思いきや……しばし沈黙の時間が続きます。時々アタリがあるもののエイやサメで、中々本命は現れません。またアタリがあってもうまく食い込ませられるか、そして、フッキングからファイトに持ち込めるかがキーポイント。難しいですが、いつフッキングするか、そのドキドキがたまりません。午後になりいくつかポイント移動、すると餌を入れた瞬間船全体にヒットのラッシュが！ 先ほどまでの沈黙を破り、良型のマゴチが釣りあがります。本日の最大魚となる約57cmのマゴチ2匹が同時にかかるなど、大いに盛り上がりました。40cm以下のマゴチはタグを打ってリリース。

その後は移動を繰り返し、ポツポツと釣れるものの沖上がりの時間となり終了となりました。検量対象の40cmオーバーは12人の人が釣りあげ、いよいよ結果発表です！

第1戦:マゴチ大会

- ▼開催日:2023年5月28日(日) 出船7:30 沖上がり14:40
- ▼場所:東京都大田区南六郷「ミナミ釣り船」
- ▼審査:40cm以上のマゴチ1尾の重量
- ▼ルール:IGFAルールに準ずる(電動リール、クッションゴム不可。ハリ数は2本までなど)
- ▼その他:バググリミットは40cm以上、3尾まで
- ▼参加人数:20人(女性2名、ジュニア1名、取材1名含む)

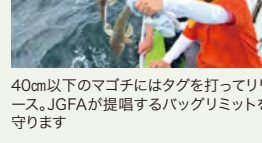
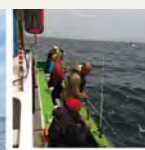
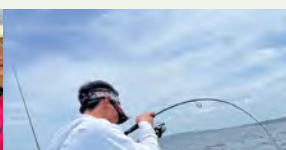
【結果発表】

1位と2位の争いは僅差となりましたが、優勝は福永雄海さんの1.30kgとなりました！ おめでとうございます！

- | | | |
|----|------|--------|
| 1位 | 福永雄海 | 1.30kg |
| 2位 | 伊達志織 | 1.20kg |
| 3位 | 古宮正勝 | 0.70kg |



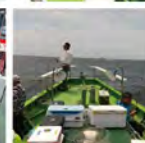
船長にサイマキの付け方を教わり、いざ出航！



40cm以下のマゴチにはタグを打ってリリース。JGFAが提唱するバググリミットを守ります



本日の上位3名。年間表彰への大きな一歩です



ヒットラッシュのときも！船全体が大忙し、ルアーにも釣果が

第2戦:タチウオ大会

- ▼開催日:2023年9月24日(日) 出船6:45 沖上がり14:00
- ▼場所:神奈川県川崎市「中山丸」
- ▼審査:80cm以上のタチウオ3尾までの総重量
- ▼ルール:IGFAルールに準ずる(電動リール、クッションゴム不可。ハリ数は2本までなど)、テンヤ不可
- ▼その他:バッグリミットは 80cm以上、5尾まで、他魚含め10尾まで
- ▼参加人数:15人(うち女性3名)

【当日の概況】

天候は曇り、海は荒れておりやや釣りにくい状況でした。皆さんエサ釣りを選択。海況は悪いもののコンスタントに釣れました。1メートルを越える大物はポツポツ程度で、アベレージサイズが多い状況。80cm以下など、リリースできるものはリリースし、バッグリミットを守りながら各々楽しんで釣りをしました。

【結果発表】

80cm以上の3尾を選んで計測。優勝は伊達志織さんの1.70kgとなりました!「猿島沖57mくらいのタナでアタリがあり、ネチネチ誘っていたらガツンと竿先が引き込まれました。ドラグがジリッと鳴り、コレはもしや……と慎重に、ハラハラしながらやり取りして何とか上げる事ができました。沖釣りサーキット優勝目指して、これからも精進いたします!」とコメントを頂きました。

- | | | |
|----|------|--------|
| 1位 | 伊達志織 | 1.70kg |
| 2位 | 伊達武 | 1.35kg |
| 3位 | 福永雄海 | 1.20kg |

第3戦:ヒラメ大会

- ▼開催日:2023年10月22日(日) 出船4:30 沖上がり11:00
- ▼場所:千葉県飯岡「隆正丸」
<https://www.iioka-ryushomaru.com/>
- ▼審査:全長40cm以上のヒラメ1尾の重量
- ▼ルール:IGFAルールに準ずる(電動リール、クッションゴム不可。ハリ数は2本までなど)
- ▼その他:バッグリミット(持ち帰り制限)は40cm以上、2尾まで
- ▼参加人数:20人(うち女性3名)

【当日の概況】

天候は晴れ、波の高さは1.0~1.5m、水温21度、弱い北風のコンディション。飯岡沖の水深10m~35mを狙いました。総勢20名が18号船に乗り込み、バッグリミットサイズを超えるヒラメを狙い、その重量を競います。

アタリは多く、8~10尾釣れた方も!皆さん魚の引きを楽しんでいました。40cm以下のヒラメはリリースし、一部はタグの装着も行いました。そんな中優勝したのは60cm、2.10kgをキャッチした有坂さん!「最後の最後に釣れました」とのコメント通り、大逆転です。釣行後、ランチを食べながら表彰式を行い、楽しい時間は終了となりました。ヒラメ大会からのサーキット参加者もあり、仲間として和やかに釣りを楽しみました。

【結果発表】

40cm以上の1尾を選んで計測。優勝は有坂英さんの2.10kgとなりました! 根がかりなどに苦戦しながらも最後にグッドサイズを釣り上げ見事優勝です。

- | | | |
|----|------|--------|
| 1位 | 有坂英 | 2.01kg |
| 2位 | 古宮武 | 1.90kg |
| 3位 | 佐々木愛 | 1.85kg |

沖釣りサーキットは残り2戦。現段階ではやや混戦模様か!?初参戦の方もどうぞお気軽にお申込み下さい。IGFAルールやバッグリミットを守りながら沖釣りを楽しみましょう!

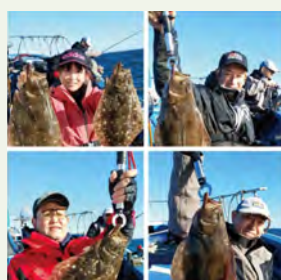
【第3戦までの順位表(暫定)】(上位者を表示)

合計ポイントで年間チャンピオンが決定します。上位3名にはトロフィーが進呈されます。

- | | |
|------|----|
| 伊達志織 | 28 |
| 福永雄海 | 24 |
| 佐々木愛 | 18 |
| 濱野崇 | 15 |
| 伊達武 | 12 |
| 有坂英 | 11 |
| 古宮武 | 11 |
| 古宮正勝 | 10 |
| 亀岡昇 | 9 |
| 浅野和也 | 9 |



80cm以上が持ち帰り対象です。いい笑顔ですね!



初参戦の方も見事にキャッチ! すぐに打ち解けられますね



1位から3位までの方おめでとうございます!



リミット未満の小さいヒラメは、さらなる成長を願ってタグ&リリース



最後に全員で記念撮影です。中山丸さんありがとうございました

記録、資源と人の集い Records, resource and gathering

伊藤義明さんインタビュー

Yoshiaki Ito Interview



JGFA(以下**JG**):本日は、ジャパンゲームフィッシュ協会の審査委員長である伊藤義明さんに、いろいろな方面のお話を伺いたくお時間を頂きました。横浜をベースとするチャーターボート・サービス「シークロ」のガイドさんでもあり、お忙しい秋だと伺ったのですが、本日はお休みで?

伊藤義明(以下**IY**):たまたま休みです。昨夜から今朝にかけてはパトロールをしてきました。ここ一週間くらいはビッグベイトに対するスズキの反応が良く、コノシロの群れに付いた魚の釣りが町中に近い場所でできていたのですが、一昨日くらいから急にパワーダウンしてしまってます……。

JG:水温の下がり方が遅いので、例年に比べて遅めの展開だったのでは?

IY:いや、コノシロに関しては二週間ほど早いイメージでした。大きな魚も入ってきたのですが痩せていて、まだ産卵がらみではないようでした。大きなルアーを使っている、60センチとかの魚が混ざって釣れていました。70センチ台が多

かったですけど。

JG:コノシロは、湾内にたくさん入っているんですか?

IY:いっかい抜けて、どこかに行ってしまう。例年のパターンでいくと、11月の第一週からつねにいる状態になっていて、1ヶ月経つと消えはじめるという感じなんです。1ヶ月半くらいの間、探せばどこかにコノシロはいて、それにスズキが絡んでいました。ここ数日潮色が悪いこともあるんですが、いるべきところにいないんです。次の潮でまた入ってくると思うんですけどね。

JG:外側の大場所にはいるんでしょう?

IY:たとえば多摩川の河口などにはいるんですが、それにスズキがあまりついていないですね。しかしイワシにターゲットを絞っているスズキは至るところにいますね。しかしお客さまのニーズでいちばん多いのがビッグベイトで釣りたい、というものですから。

JG:イワシについた魚を狙うのと、ビッグベイトに反応する魚を探すのとでは、場所もペースもやりかたもぜんぜん違うわ

けですよ?

IY:はい。お客さまのお気持ちと状況に応じて、柔軟に最適ストラテジーをご提案するのが大事だと思います。ビッグベイトは初めて、という方には最初頑張ってもらって、疲れが見えたらストラクチャー撃ちのフック釣りを挟み、大物場所を休ませたあとに再チャレンジするというパターンもあります。

JG:投げないと釣れませんが、集中力が欠けたときに来られても、ねえ……。

IY:さいしょにワンバイトでもあれば緊張がずっと続くんですが、うまくはいかないこともあります。潮や風の予報も加味して、お客さんの性格も考慮して、ベストの一日を組み立てます。

JG:釣りをうまく組み立ててくれるガイドさんは貴重です。スポーツフィッシングにきちんと目配りできているガイドさんはまだまだ少ないというのが実感ですけど。

IY:東京湾ってたしかに豊かな海ですけど、シーバスに関して言えば巨大なキャパシティがあるわけではないですよ。時期にもよりますがにおかた決まってくるので、同業者さんの動向も見定めつつ、ポイントを回る順番も考えます。また、フライフィッシングをやる場合、プラグで投げまくられたあとはそうとう厳しくなりますから、細かいプランニングが必要になりますね。

JG:ときに、伊藤さんはフルタイムになられてから2年目でしたっけ?

IY:単独で出るようになって、ちょうど1年くらいです。その前はアングラーとしてボートに乗っていて、船舶免許を取ったのは7年くらい前でしょうか。内房でレンタルボートを使い、友達や先輩を乗せて楽しんでいました。

JG:プロになられてから、魚の見え方とかアプローチとか、変わってきたことはありますか?

IY:ずいぶん変わりましたよ。サービス業はお客さまが主役です。私が遊びで釣りをするときは、釣れたすべての魚にタグを装着してぜんぶリリースしていましたが、お客さまの魚は私のものではありません。持ち帰るかリリースするかの判断も、常識の範囲内であればお客さまのご意向に従います。



初めて釣ったスズキは85cm、ラバラで。1982年、品川区京浜運河にて



中学生になってから、関東周辺の釣り場へも頻繁に出掛けるようになった。1985年の牛久沼

JG: 徐々に、というのは大事ですからね！ 急に思考や行動は変わらないですし。

IY: アマチュアキャプテンをやっていたときも、友達のなかには「たまには持って帰って食べたいなあ」という人がいました。初めてスズキを釣り上げた人に「それリリースしてよ」とは言えないです。そういう経験を経て、魚の大切さや適切な持ち帰り量がわかってくるわけです。「僕の家族だと、2尾もいれば多すぎるくらいかな」などと自分で納得されるのが大事だと考えます。新鮮な魚が欲しいから釣りを続けたい、っていう人もいるでしょうし、釣り行為自体が楽しいから魚はいらない、って考える人も出てくるでしょう。主体性をもって次のステップに行くお手伝いをするのが、私たちの役目の1つですかね。

JG: 魚って、とっても多層的な意味を持つ私たちの相手ですよ。食物、楽しみの対象、生物としての仲間……それを釣るというのは複雑な行為だと思います。押しつけがましくなく、かつ納得してもらえるかたちでアドバイスしないと。

IY: JGFA/IGFAの理念に賛同しているということで、誤解されがちなところもあります。「全部リリースが絶対なんですよ？」とか。

JG: でも伊藤さんは、お客さまへの当たりが柔らかいのですから！

IY: 大きな魚が釣れたときには、ひとことお断りしてJGFAタグを装着させてもらうこともあるのですが、その行為に興味を持ってくれる人も出てきました。そこから、協会の話へと自然に脱線して行ったりします。プロになって、人との接し方はおのずと変わってきました。

JG: 私たちは、他の釣り人の方たちと現場であまり遭遇することがないので、言葉で理念を発信するのが主になるのですが、伊藤さんたちプロの方々は、釣り人と個別に濃くおつきあいされるわけで、「伝える機会」は確実に多いですね。言葉や映像ではなく、現場でのリアルさはとっても貴重です。そこでちいさなきっかけを心の中に埋め込んでおいていただければ、とっても嬉しいです。話はかわりますが、1つのブランド(シークロ)の下に複数のキャプテンがいて営業されているっていうのは、従来の船宿さんではもちろんありますが、ライトタックルのボートでは、あまりありませんよね？

IY: アイランドクルーズさんもあります。

JG: あっ、そうでした。ピークシーズンは予約殺到でお忙しいと思いますが、うまくペース配分してやってください。東京湾のスズキに関して、釣れ方や資源はどう思われますか？

IY: 大型の個体は、かなりの速度で減少していくのではと危惧しています。ガイドを通じての主観になるんですが、流行中のビッグベイトの釣りは、東京湾ではほぼ、コノシロなどの群れに付いたプリースポーンフィッシュをねらうわけですが、魚へのダメージがとて大きくなる可能性があります。3/0などの大きなトリプルフックがエラのなかに刺さってしまったら、致命傷にもなりえる大きな傷ができてしまいます。

JG: 確かに。

IY: それに、あんまり釣り自体を体験したことがない人でもパターンにはまれば、かなりイージーに80センチ、90センチ



栈橋で、イクスに入れてきたシーバスをタグ&リリース。手早く、正確に、確実に。1996年のJGFA入会時から続けている



バックバックキャンピングをしながら、朝とタマズメに海岸へ現れるサケを狙った釣り。北海道にて



ウルトラライト・ラインでの釣りにも数年間チャレンジ。2ポンドラインで5.35kgのスズキ。師匠の相原さん、先輩の助川さんとのスリーショット

チという魚を手にする可能性は秘めているやり方です。つまり、これまであまり魚を扱ったことがないアングラーでも、いきなり巨大な個体をハンドリングしなければならないという状況に遭遇するわけです。私がキャプテンをしているボートでは、釣り上げて高揚した空気をへんにぎこちなく変えないように配慮しながら、水から出す時間をできるだけ抑えてもらうようにはするんですが……。ダメージが大きそうな場合はもちろんタグは打ちませんし、できるだけ蘇生を試みてから再放流します。私が目に見える範囲内でも、そういうことを実感しますから、圧倒的に多いであろうそれ以外の場面ではどうなっているのか不安です。

JG:ビッグベイトは全国的な流行ですね？

IY:そのとおり、大きなフックを使った大きなルアーが投げられていて、これは時としてすさまじい訴求力を持つメソッドです。たとえば去年、お2人のゲストが4時間のガイドで20尾ほどをランディングし、そのうち12～13尾が80センチオーバー、ということがありました。残りもほとんど70センチ超えてました。

JG:老成魚の群れじゃないですか……

IY:そうなんです。4時間でそれだけの大型魚をランディングできちゃうというのは、釣りとしては最高かも知れませんが、何日もそれが繰り返されるとなると、資源への影響が心配になります。

JG:キャプテンとして、できるだけ避けたいダメージとしてはフックの傷と、水から上げて写真を撮っている時間の長

さですか？

IY:スティールヘッドやトラウトのキャッチ&リリースでよく言われる「キープ・ウェット」というのが、シーバスでも重要だと思います。プランターなどを改造したイケース状のものを装備してあるところもありますが、船のタイプによっては不可能ですし、シークロにも載せてはいません。**JG:**でしたら、写真撮影までは作り付けのライブウェルかフネの外に、フィッシュグリップなどで掴んで浸けておく、ってことになりますか。

IY:はい、そうするんですが、仮に2人で乗船されている場合、もう1人の方はすぐにでも釣りたい気持ちがありますので、釣れた魚への配慮、アングラー2人への配慮で忙しいですね(笑)。夢のような時間を求めて来ていらっしゃるの、その可能性があるときに時間を費やしてしまうことは避けなければならない。ビッグフィッシュを求めるのはジレンマだらけです。

JG:釣りの宿命でもあります。キャプテンたちはジレンマの最前線にいるお仕事だと思っています。

IY:東京湾のスズキ資源に関していうと、私が最初にルアーフィッシングで釣ったのは中学校1年のとき、大井埠頭の有名なポイントである若潮橋でした。友達と電車を乗り継いで行って、半夜釣りをやったりしましたね。ブラックバスの道具を流用し、当時発売されたばかりだったカウントダウン・ラバラのレッドヘッドを投げていれば、フックが何尾も釣れました。何の工夫もない子供の釣りですが、最大で85センチ。それと比べて

現在は……ということです。もちろん立ち入り禁止の場所は増えていますが、単純比較はできませんが、それほど釣れる魚ではなくなってきました。私の師匠に相原元司さんという人がいらっしやって、内房で18センチのミノーを投げて大型のスズキをよく釣っていたんですが、私も教を乞いながら同行させていただきました。行くとばかりいってないのですが、岸釣りで、10ポンドを超えるスズキが、1シーズンに何尾かは釣れたものでした。

JG:10ポンドといえば、およそ4.5キログラムですね。大きい。

IY:2001年くらいから、富津の海苔棚パターンというのが注目され始めて、ボートで昼間に叩くと大きいのがとてもよく釣れていました。しかしそれが盛り上がるのとほぼ同時に、岸釣りが急速にパワーダウンして釣れなくなりました。あきらかに関連性がありましたよ。海苔棚を釣らせるボートに、相原さんと乗ったこともあるのですが、小さくても75センチくらいあり、85センチとかも簡単に釣れるやり方でした。沖の海苔棚で、1船で10尾以上もの大型シーバスを釣っているわけですから、秋口から年明けまで、いったい何尾のスズキがハリにかかって、ダメージを受けるんだろうと思いました。そりゃあ、岸にまでやってくる魚も減るよ……と思いました。

JG:その釣りも、相当大きなルアーを使うんですね？

IY:私の記憶ですと、富津の釣り方こそ、コノシロパターンに立脚するビッグベイト釣法の走りですね。最初は、定石と



バスロッドとナイロン12ポンドラインを使い、プラグをキャストして釣ったバショウカジキ。ライン強度を大きく上回る重量の魚とファイトするテクニックは、2ポンドラインで培われたと確信



本流の大ヤマメ釣りは初夏のライフワーク。毎年時間を見つけて出掛けることにしている

言いましょうか、コノシロにサイズを合わせたミノーを投げていて、たまに釣れる程度だったのだけれど、ある日「大きなトップウォーター・プラグでも釣れるんじゃない？」と思った人が、青物用のペンシルベイトを投げると、こんなにスズキいたの？って思うくらいルアーに襲いかかってきたんだそうです。

JG:水面膜の魔力ですね。

IY:次にヘドンのザラスプーク、オリジナルのサイズではなく25センチくらいある「マグナム」ですが、それを投げてみると、青物用のペンシルって垂直に浮いて、スプラッシュさせながら動きますのであんまり横にはブレないんですが、ザラは左右に首を振る「ドッグワーク」をするでしょう？ それにさらに効果的だったと。火がついてきたのはこんな経緯ですね。その後で、湾の反対側の横浜や川崎でも、羽田沖でもやる人が現れ、爆発したということですね。

JG:ミノーはあんまり釣れず、ペンシルが爆発したということですが、いまは沈めて使うビッグベイトもあるんでしょう？

IY:水面直下でヒラを打たせるルアーがあります。もともとはパイク用の、グライドベイトという種類に起源を持つもので、薄いのでベロンという印象の動きをするタイプです。コンディションによって、トップに出きれない魚も口を使うというので、そちら方面にも枝分かれしています。トップか水面直下か、どちらかしか食わないという状況も確実にあります……。

JG:劇的に効くメソッドは、そのアピールの強さの裏面として、賞味期限も短い

のではと思うのですが？

IY:動かし始めたルアーにドバンと出てそれが空中に弾き飛ばされ、着水したものがまた空中に弾かれ……というスズキのバレーボールみたいな場面は、かつてよくあったシーンなのですが、ここ数年はありませんね。ワンキャストで10バイト、なんていうこともあったんですけど。

JG:魚が減ったのか、長生きしている魚に経験が蓄積してきたのか、複合要因なのか？

IY:爆発的に効くメソッドの初期は、ほんとうにすさまじいものであることを経験しました。

JG:数の少ない大物に的を絞った釣り方を続けると、資源量に何らかの影響があるだろうと考えるのが普通の論理だと思われます。

IY:お客さまもビッグベイト一辺倒というわけではなく、「巨大ルアーを四方に

ぶん投げる大味な釣りじゃなくて、ストラクチャーをていねいに探っていくのがいちばん好きなんだ」という方もいらっしゃいますよ。

JG:メソッドが多様化して、さまざまな楽しみ方があるのはむしろ健全で、ありがたい傾向ですね。

IY:私も、海のルアーフィッシングの黎明期に足がひっかかっていた年齢なので、古山輝男さんや若林務さんたちのスタイル、釣り方、彼らが関わった道具などにあこがれていました。その頃に買った古い道具を引っ張り出して使うのもおもしろいです。お客さんの中でも、ボーマーのロングAだとか、ヘドンのプラグなどにこだわっている人もいますよ。いまのところは、なんとかそんな多様性を許容する資源量がありますが、これからはなんとも。

IY:日本のルアーフィッシングに大きな



バックパックキャンピングで川泊まりの旅も楽しむ



リリース方法はケースバイケース。手を添えて支え、魚体を前後に動かして鰓に水を通して充分に呼吸をさせ、自力で泳ぎだすまで待つ方法、「ドボン！」と水中へ放る方法など



タグ&リリースは、釣り人を資源管理のほうに注目させる大事なツールと感じている

シェアを占めている釣りモノがシーバスですから、何世代にもわたって多様な楽しみ方ができる形を維持していきたいですね。

JG:フライフィッシングは過去と地続きなメソッドですし、ブラックバスのビンテージ指向も知っていましたが、シーバスの釣りもそんな流れがあるんですか。

IY:若いころに戻る、ノスタルジー遊びもできるんです。

JG:話はまた横にずれます。ジャパンゲームフィッシュ協会では審査委員長も担当していただいております、記録というものに関して私たちは、時流に合わせて考えていく必要に迫られています。私たちの承認欲求が以前よりも高まっているように思えるいま、記録になにが求

められているのか、ということなんですけれど……。

IY:健全な承認欲求は、釣りに向かわせる大きなモチベーションの1つになり得るのだと思います。しかしスポーツフィッシング対象魚の記録に関しては、頭打ち感はどうぜんあります。会員の方たちのやる気につながる新しいコンテンツが欲しいですね。

JG:予測された流れではあるんです。黎明期は、もちろんほとんどの記録は空白で、どれを埋めてやろうかという楽しみもあった。むかしのイヤブックを開いてみると、VACANTと書いてあるスロットだらけです。それが埋まってしまい、最大級クラスの魚が釣り上げられてしまうと、もう鈍化する。そしてだいたい、昔の

ほうが魚はいましたから、さらに更新は難しくなる。この手の記録の宿命として、申請数は減っていきます。

IY:スズギに関してはほぼ飽和状態というか頂点に近いと思いますので、いつときはまったく記録のデータを気にしなかった時期もあるんですが、スペシャルクラブは面白いと思いました。5 to 1とか10 to 1というカテゴリーが立ち上げられ、釣り上げた魚の重量と使っているラインの強度の比で認定するんですが、すぐにIGFAは廃止してしまいましたね。90年代から始まって、2000年頃に消滅したようなイメージです。

JG:おぼろげな記憶しかありませんが、そうだったような気がします。

IY:細すぎるラインで大ものを釣ることを推奨するようなスペシャルクラブは、魚に対するリスクが大きいと考えられたのかも知れません。師匠の相原さんもそういう解釈でしたね。ともあれ、会員の皆さんのモチベーションになりうるようなカテゴリーやイベント、コンテスト、スペシャルクラブなどの設定は、引き続き必要とされますよね。

JG:IGFAがこのところ力を入れているのが「グランドスラム・クラブ」です。いまカテゴリーがたしか8つあって、たとえばビルフィッシュ・カテゴリーはクロカジキ2種、バショウカジキ2種、シロカジキ、ニシマカジキ、マカジキ、メカジキ、フウライカジキが入っています。それぞれのカテゴリーの中で3魚種釣ればグランドスラム、4種でスーパー・グランドスラム、5種でファンタジー・スラムとなります。これは私も参加してみたいくらいですし、日本でも適切な魚種とカテゴリーを選べば可能性があると思われます。

IY:話を戻しますが、強度の小さいラインでトライすると、いろんなことがわかってくるというのも事実なんです。

JG:IGFAルールというのは、現在も微調整が行われていますが、とってもよくできたルール体系だと思います。

IY:1kgテストのラインで釣ってみた体験があるので、たとえばコストリカヘターポンを釣りに行ったときでもバショウカジキにチャレンジしたときも、どうすればラインの強度を最大に活用したファイトができるのか想像できるので、



ご家族をご案内。釣りの楽しさを次世代アングラへと伝えたい



お客様の目的や目標に沿った最善のサポートを心がける。「今日は楽しかったよ、ありがとう!」とお言葉を頂けた時は最高の気分

自信につながりました。スズキ、クロダイ、イシダイなど、一時期はいろいろやってみました。

JG: あくまで常識の範囲内ですが、ライト寄りのセッティングで釣ってみるのはためになると思います。いまはPE のブレイド全盛ですが、切れるラインっていうのは大事ですよ……。

IY: 使うラインの破断強度をあらかじめ設定すると、魚とコンタクトするフックポイントから始まり、フックシャングの太さ、リーダー、ライン、ノット、ロッド、リール……すべてに破綻がないように作らなければならないので、釣りのテクニックに厚みが出てきますし、さらに面白みを感じられるようになります。

JG: 個人的な話をさせてもらおうと、私は記録を作ろうとは思っていないんです

が、IGFAルールに立脚して全ての仕掛けを作っています。タックルの技術革新を突き詰めていくと、どんどん魚は不利になってしまいますが、フェアさのためにどこかで歯止めをかけようという試みといえます。

IY: 釣りとのつきあい方も、JGFAに來れば新しい展開が見える、というのを感じていただけるようになればいいですね。私がよく知っているスズキ釣りを例に取りますと、これまでは製品プロモーションが釣りのスタイルを主導してきた感があります。しかし最終的には自分自身と魚とがどうつきあうか、に帰結するので、メーカーではないJGFAが提唱することがなおよさら説得力を持つケースも多くなってくるのではと想像します。そういったところをアピールしていくことが、

仲間を増やし、さらには日本の釣りをさらに良くしていく貢献につながるのではないのでしょうか。

JG: クラブ組織は全世界的に弱ってきていますが、JGFAは力強い背骨とビジョンがありますから、人も集いやすいと思いますね。

IY: ちょっと前までは、いま時分になると仲間でバスを借り切って、千葉にハゼ釣りに来られる方たちがたくさんいましたね。アユ、ヘラブナ、磯釣りなんかもそんなやり方がありました。モータリゼーション前の、いかにも昭和というやり方ですが!

JG: JGFAも、理念を同じくする人たちが楽しみながら、新しい形で集える会へと、きっと生まれ変わっていくはずですよ。ぜひよろしくおつきあいください。

NEW JAPAN RECORD GALLERY

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンジス記録 FAL =オールタックル・フライ・レンジス記録 W =女性 J =ジュニア 記録

※アカメ、イトウなどの環境省レッドデータブック記載種は、リリース前提での記録申請受付となります。

※コクチバスなどの外来魚の申請は外来生物法の規定にそって受け付けます。外来生物法では規定していないキャッチ&リリースについては、各都道府県でこれを禁じている水域もあり、持ち出しを禁止しているケースもありますので、これらに従うことといたします(2016年7月5日JGFA理事会決定)。

※タイリクスズキに関しては、オールタックル部門および10ポンドシーバスクラブ、年間フィッシングコンテストの対象として申請を受け付けることになりました(2020年4月1日より)。

お願い:記録申請時は、書類、紙焼き写真とともに高画質の写真データもご提出を!
大型魚のデータをできるだけ正確に保存するためです、ご協力をお願いいたします。メディアの形は問いません。

OFF SHORE <船からの釣り>

<クロダイ> PORGY, black / *Acanthopagrus schlegelii*

●W-4kg(8lb)クラス ●1.70kg ●神奈川県川崎市西扇島沖 ●2023/8/13 ●中井 遥子 ●ファミリー会員 ●シークロ

TR W

<シロカジキ> MARLIN, black / *Makaira indica*

●W-60kg(130lb)クラス ●124.00kg ●宮城県金華山沖 ●2023/8/27 ●三枝 久美恵 ●TEAM HAUNTS ●フォワード

W



中井 遥子
<クロダイ 1.70kg>
カニエサがなくなり、
半信半疑のままワーム
で挑戦。何回か切られ
た後だったので不安
でした。落るタイプ
だったので焦らずファ
イトできました



三枝 久美恵
<シロカジキ 124.00kg>
シロカジキは何匹か釣っ
ているのですが、記録を狙うと
なかなか難しかったです。う
れしいです



SHORE <岸(磯)からの釣り>

<スズキ> SEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

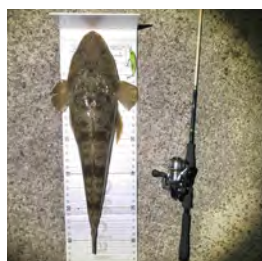
●M-24kg(50lb)クラス ●2.20kg ●広島県安芸郡坂町総頭川河口 ●2023/8/6 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<マゴチ> MAGOCHI / *Platycephalus* sp.

●M-1kg(2lb)クラス ●1.95kg ●島根県隠岐の島町西郷湾 ●2023/7/5 ●原澤 平 ●レギュラー会員



田村 紘一
<スズキ 2.20kg>
深夜に着水からの
フォールで食いました



原澤 平
<マゴチ 1.95kg>
深夜3:00ごろにHIT! 隠岐
ではアベレージサイズ



FRESHWATER <淡水の釣り>

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-4kg(8lb)クラス ●5.15kg ●埼玉県元荒川 ●2023/7/18 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-10kg(20lb)クラス ●4.01kg ●埼玉県元荒川 ●2023/9/7 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

<カムルチー・タイワンドジョウ> SNAKEHEAD / *Channa* spp.

●M-24kg(50lb)クラス ●1.64kg ●広島県東広島市黒瀬川 ●2023/7/2 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

CR

<コイ> CARP, common / *Cyprinus carpio*

●M-37kg(80lb)クラス ●10.30kg ●島根県鹿足郡津和野川 ●2023/8/18 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

CR

<コイ> CARP, common / *Cyprinus carpio*

●M-60kg (130lb) クラス ●5.92kg ●鳥根県鹿足郡津和野川 ●2023/8/19 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

CR

<ニジマス> TROUT, rainbow / *Oncorhynchus mykiss*

●M-8kg (16lb) クラス ●5.40kg ●北海道洞爺湖 ●2023/8/19 ●奥田 直人 ●Rock Fish-side

<ニジマス> TROUT, rainbow / *Oncorhynchus mykiss*

●W-3kg (6lb) クラス ●1.30kg ●山梨県桂川 ●2023/7/14 ●中井 遥子 ●ファミリー会員

W



竹内 尚哉
<アメリカナマス 5.15kg>
掛けた瞬間から下流へ走られまくり、物凄いパワーでした。巻けるだけ巻いて相手が弱ってきた頃合いでタモ入れ。元荒川でこのサイズを釣ることができて大満足です



田村 紘一
<カムルチー・タイワン ドジョウ 1.64kg>
トップで出さず、スピナーベイトで掛けました



田村 紘一
<コイ 10.30kg>
日暮れ前にパンで釣りしました



奥田 直人
<ニジマス 5.40kg>
無風ベタナギ、深めカウントからヒット。巨体が水面からジャンプ、シビれるファイトでした



中井 遥子
<ニジマス 1.30kg>
ぐんと重くなり、生命感に乏しいなと思ったのですが、巻いてくると跳ねたり潜ったり走ったり、ドキドキしながらのファイトでした

FRESHWATER FLY FISHING <淡水のフライフィッシング>

<コウライニゴイ> BARBEL, steed / *Hemibarbus labeo*

●M-10kg (20lb) クラス ●2.10kg ●広島県大竹市小瀬川 ●2023/9/2 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<コウライニゴイ> BARBEL, steed / *Hemibarbus labeo*

●M-8kg (16lb) クラス ●2.00kg ●山口県岩国市小瀬川 ●2023/8/26 ●田村 紘一 ●レギュラー会員



田村 紘一 <コウライニゴイ 2.00kg>
淵頭に定位していたので釣りました

ALL TACKLE <オールタックル日本記録>

<アジアコショウダイ> SWEETLIPS, painted / *Plectorhinchus pictus*

●オールタックル ●1.27kg ●鹿児島県口永良部島 ●2023/9/16 ●坂本 幸博 ●終身会員

<イチハラビロウドサメ> DOGFISH, japanese velvet / *Scymnodon ichiharai*

●オールタックル ●5.20kg ●神奈川県江の島沖 ●2023/9/3 ●西野 勇馬 ●ファミリー会員 ●サン・リリー

<オスジクロハギ> SURGEONFISH, ringtail / *Acanthurus blochii*

●オールタックル ●0.64kg ●鹿児島県奄美大島古仁屋港 ●2023/9/24 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<クマドリ> TRIGGERFISH, orange-lined / *Balistapus undulatus*

●オールタックル ●0.50kg ●鹿児島県口永良部島 ●2023/9/16 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<クロホシフエダイ> SNAPPER, Russell's / *Lutjanus russelli*

●オールタックル ●2.03kg ●高知県室戸沖 ●2023/7/28 ●竹村 浩昭 ●レギュラー会員 ●マック号(カヤック)

<クロモンガラ> TRIGGERFISH, pinktail / *Melichthys vidua*

●オールタックル ●0.56kg ●鹿児島県喜界島空港沖 ●2023/7/4 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●天人菊

<ゴマモンガラ> TRIGGERFISH, titan / *Balistoides viridescens*

●オールタックル ●5.00kg ●沖縄県沿岸の浜 ●2023/7/11 ●和氣 恒久 ●サバロ

CR

<サザミトサカハギ> UNICORNFISH, bignose / *Naso vlamingii*

●オールタックル ●0.52kg ●鹿児島県奄美大島古仁屋港 ●2023/7/3 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<ササムロ> FUSILIER, blue and gold / *Caesio caerulaurea*

●オールタックル ●0.57kg ●鹿児島県口永良部島 ●2023/9/16 ●坂本 幸博 ●終身会員

<センネンダイ> SNAPPER, emperor / *Lutjanus sebae*

●オールタックル ●21.14kg ●東京都小笠原北ノ島一ノ岩 ●2023/8/3 ●上口 亮一 ●クラブゴールデンドリーム ●泰丸

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンジス記録 FAL =オールタックル・フライ・レンジス記録 W =女性 J =ジュニア 記録

<タキベラ> HOGFISH, golden-spot / *Bodianus perditio*

●オールタックル ●2.52kg ●鹿児島県喜界島空港沖 ●2023/7/4 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●天人菊

<ナメモンガラ> TRIGGERFISH, redbtail / *Xanthichthys mento*

●オールタックル ●0.50kg ●東京都八丈島抜舟の場 ●2023/8/25 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<ニジョウサバ> MACKEREL, double-lined / *Grammatorcynus bilineatus*

●オールタックル ●1.48kg ●鹿児島県口永良部島 ●2023/9/16 ●坂本 幸博 ●終身会員

<フサギンボ> FUSAGINPO / *Chirolophis japonicus*

●オールタックル ●0.49kg ●北海道勇払沖水深30m ●2023/7/17 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●あまちゃん

<ホシガレイ> HALIBUT, spotted / *Verasper variegatus*

●オールタックル ●1.10kg ●北海道室蘭沖水深12m ●2023/6/6 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●ラブーン

W

<ヤイトハタ> GROUPER, Malabar / *Epinephelus malabaricus*

●オールタックル ●1.39kg ●沖縄県北谷海岸 ●2023/9/9 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<ヨスジフエダイ> SNAPPER, common bluestripe / *Lutjanus kasmira*

●オールタックル ●0.50kg ●鹿児島県大島郡泊町瀬名沖水深25m ●2023/7/14 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●第二福丸

W

<リュウキュウアカヒメジ> GOATFISH, orange / *Mulloidichthys pfluegeri*

●オールタックル ●0.48kg ●鹿児島県喜界島空港沖 ●2023/7/4 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●天人菊

<リュウキュウヒメジ> QGOATFISH, sidespot / *Parupeneus pleurostigma*

●オールタックル ●0.61kg ●鹿児島県大島郡瀬戸内町与路島、加計呂麻島の間 ●2023/7/2 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●みなみ丸II



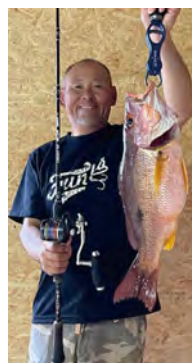
坂本 幸博

<アジアコショウダイ 1.27kg>
根に入られ引き出すのに時間が掛かった魚。アタリがあるのにハリ掛かりしないので、エサを小さくして連続ヒットさせました



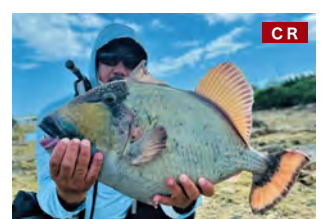
西野 勇馬

<イチハラビロウドサメ 5.20kg>
いくつもの深海魚がつかれているポイントへ出船！9月最初の釣行で記録魚&初魚種を釣ることができて最高でした



竹村 浩昭

<クロホシフエダイ 2.03kg>
今年はクロホシフエダイの数が多いなと感じていましたが、沖の岩礁帯を狙って釣行5回目で釣れました。カヤックフィッシングでタイミング良く釣れて良かったです



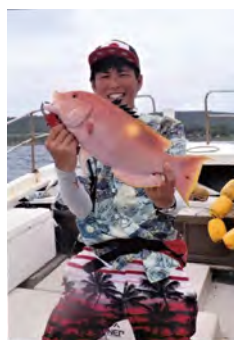
和氣 恒久

<ゴマモンガラ 5.00kg>
走っていく方に障害物がなく、運良く捕れました



上口 亮一

<センネンダイ 21.14kg>
10キロはあるカンパチかなと思う引きでしたが、上がってきたのは美しい赤い魚でした。小笠原釣行10回目という節目の思い出。海と人そして仲間に感謝です



坂本 幸博

<タキベラ 2.52kg>
微細なアタリで竿を立てると、いい感じで竿が曲がり重みを感じました。ハラハラしながらやりとり。ドラグも出てパワフルでした



浅野 法子

<ホシガレイ 1.10kg>
コッソリと小さなアタリがあり、待っていると強い引き込みになりました。最初はヒラメかなと思いました



浅野 法子

<ヨスジフエダイ 0.50kg>
着底と同時にアタリがあり、巻き上げ中かなり引いたのでどんな魚なのか楽しみでした。キレイな魚でした

ALL TACKLE LENGTH RECORD <オールタックル・レンジスレコード>

<オオクチバス> BASS, largemouth / *Micropterus salmoides*

●レンジスレコード ●53cm(叉長) ●山梨県河口湖 ●2023/6/19 ●中村 渚 ●フィッシュ&フィンズ

W AL CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●レンジスレコード ●114cm(叉長) ●埼玉県元荒川 ●2023/9/1 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

AL CR



中村 渚
 <オオクチバス 53cm(叉長)>
 50upのバスが釣れてめちゃくちゃうれしいです



竹内 尚哉
 <ソウギョ 114cm(叉長)>
 パンを撒いて寄せに徹すると突如水面爆発、53分の激闘となりました。レングスレコードを更新できると思ったので、認定されとても嬉しいです

ALL TACKLE FLY LENGTH RECORD <オールタックル・フライ・レングスレコード>

<クロダイ> PORGY, black / *Acanthopagrus schlegelii*

●フライ・レングスレコード ●47cm(叉長) ●広島県太田川放水路 ●2023/9/16 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

FAL CR

<ナマズ> CATFISH, amur / *Silurus asotus*

●フライ・レングスレコード ●60cm(全長) ●広島県東広島市造賀川 ●2023/6/25 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

FAL CR

<ボラ> MULLET, striped / *Mugil cephalus cephalus*

●フライ・レングスレコード ●51cm(叉長) ●広島県太田川放水路 ●2023/9/16 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

FAL CR



田村 紘一
 <クロダイ 47cm(叉長)>
 ボラ狙いの外道できました



田村 紘一
 <ナマズ 60cm(全長)>
 夜中に出たけど乗らなかったで、車中泊で明け方に入り直して食べました



田村 紘一
 <ボラ 51cm(叉長)>
 渾身のオキアミミミデーションフライがマッチせず、髭と足を全部切った釣れました

5LB OVER CLUB <5ポンド オーバークラブ>

<クロダイ> PORGY, black / *Acanthopagrus schlegelii*

●3kg(6lb)クラス ●2.97kg ●東京都中央区黎明橋公園前 ●2023/7/19 ●東辻 雄平 ●レギュラー会員

TR

東辻 雄平 <クロダイ 2.97kg>
 JGFA加入半年で415枚の黒鯛を釣獲し、約300枚にタグを打つことができました。最も大きかったのがこちらの黒鯛でした。とても太っていた魚であり、隅田川のポテンシャルは大変高いと思いますので今後も狙っていきたいです



METER OVER CLUB<メーターオーバークラブ>

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●10kg(20lb)クラス ●102cm(全長) ●茨城県利根川 ●2023/6/15 ●奥山 文弥 ●フィッシュ&フィンズ

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●8kg(16lb)クラス ●100cm(全長) ●埼玉県荒川 ●2023/7/6 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●8kg(16lb)クラス ●121cm(全長) ●埼玉県元荒川 ●2023/9/1 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●8kg(16lb)クラス ●108cm(全長) ●埼玉県元荒川 ●2023/8/26 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●8kg(16lb)クラス ●104cm(全長) ●埼玉県元荒川 ●2023/8/8 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●10kg(20lb)クラス ●110cm(全長) ●埼玉県新河岸川 ●2023/9/28 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR



奥山 文弥
 <ハクレン 102cm>
 これまで数多くの98cm級を釣りましたが、今年やっと1mを超えました。阪東太郎は素晴らしい巨大魚の宝庫です



竹内 尚哉
 <ソウギョ 108cm>
 現地へ向かうと早々に草魚の姿が岸際に確認できました。大好物な草を浮かべているとバリバリ食べてくれてバトル開始。サイズ割に強く、キレイな個体に大満足できました



竹内 尚哉
 <ソウギョ 110cm>
 お初の川へ出向きポイント探しをしていると発見、パンを撒くとバクバクと反応。針に付けたパンも豪快に食べてくれました。丸々と太った魚で粘りも強かったです

申請書

★申請するカテゴリー(該当する口にノを入れてください)

- ☐ 世界記録：ライクラス ライ ン
- ☐ 世界記録：フライロッド タイベツ
- ☐ 世界記録：オールタックル
- ☐ 世界記録：オールタックル・レングス
- ☐ 世界記録：オールタックル・フライン・レングス
- ☐ 日本記録：ライクラス ライ ン
- ☐ 日本記録：フライロッド タイベツ
- ☐ 日本記録：オールタックル
- ☐ 日本記録：オールタックル・レングス
- ☐ 日本記録：オールタックル・フライン・レングス
- ☐ 日本記録：ジュニア 年齢
- ☐ IGFAスペシャルクラブ
- ☐ フィッシングコンテスト

全長 cm

胴回り cm

叉長 cm

魚種名 (標準和名)	
重量 (小魚5頭)程度まで)	kg

釣り方	<input type="checkbox"/> 船釣り <input type="checkbox"/> 岸釣り <input type="checkbox"/> 川・海の釣り <input type="checkbox"/> フライ
釣った日	西暦
ボート名 (使用した場合)	

釣り場	できるだけ詳しく
釣った時の	

状況・感想	
釣り人氏名	フリガナ 英字

(原則としてIGFA会員登録 姓氏名)	
IGFA所属	クラブ名
クラブ	会員番号 <input type="checkbox"/> 個人会員
住所	

住所	メソリア 〒
電話番号	

メールアドレス	
班認者名	フリガナ

【誓約条項】

- ☐ 申請された記録データは、JGFA会員登録された氏名で公開することを承諾します。
- ☐ 提出された写真は、特別の許諾なしでJGFA関連の立派物に使用することを承諾します。

☐ 申請する方は「私が」人でハリに掛け、一人でファイナルし、関連事項全てがKGFALルールに基づいて

☐ 入力された氏名は、正式な署名として能力を持ちます。

日本記録・世界記録・参考記録に申請する

ロッド	メーカー名 知見	
ティップ長	1/8インチ単位で中心から 下向きで	※
バット長	バットの中心から 1/4インチ下向きで	※
リール	メーカー名 知見	
メインライン・ ティベット	メーカー名 知見	
フライライン	メーカー名	※
(使用した場合)	知見 番号	
ダブルライン	① 巻いた ② 巻いた ③ フライの巻数は「巻いた」に半倍で	※
リーダー	④ フライの巻数は「巻いた」に半倍で ⑤ フライの巻数は「④に半倍で	
エアーブロー /フライ	フックの数 知見(1/インチ)	※

本職と本業はわ
 かりなくあるの
 だ。動物には時間
 概念がなくていい

中絶手術は、
 胎児の命を奪
 う行為だ。中
 断しないデ
 ザを奨励して
 いきたい

動物には時間
 概念がなくていい

動物には時間
 概念がなくていい

ストは時間概念は、
 パラメータの時間的
 位置と生物学的な位置
 との相対性によって変化する
 動物の時間概念は人間とは異なる（下記参照）

※記事(世界)記事申請の準備中。上り下りの分に変更のものも併せてあります。
 ①掲載決定できる写真(1枚以上)
 ②ルアーの写真ないしスケッチ(フック部分のわかるもの)

★キャッチを録画したビデオはありますか？
☐ ある ☐ ない
 ★魚はどうされましたか？
☐ キャッチ&リリース ☐ タグ&リリース ☐ 持って帰った ☐ その他

JGFA事務局
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館 4F

TEL. 03-6280-3950 FAX. 03-6280-3952

釣り人氏名

合は、2枚目にも必ずご記入ください。



★JGA日本記録、JGA世界記録などに申請される場合は、必ず下記項目すべてにご記入ください。
(該当しない欄についても空欄にせず、「なし」もしくは「使用せず」とご記入ください。)

★世界記録申請用の最低重量は、ラインクラス強度の1/2以上となっています。

日本記録申請の場合は、従来どおり1ポンド(453.59g)以上かつラインクラスの半分を目安とします。

追加記入分

ファイティングタイム		時間		分
------------	--	----	--	---

フライロッド <input type="checkbox"/> 使わない <input type="checkbox"/> 使った	ロッドの全長 <div style="text-align: right;">cm</div>
	エクステンションバットの長さ (リールの足の中心からバットエンドまで) <div style="text-align: right;">cm</div>

ギャフあるいはランディングネット <input type="checkbox"/> 使わない <input type="checkbox"/> 使った	ギャフあるいはネットのタイプ(いずれかに✓) <input type="checkbox"/> ギャフ <input type="checkbox"/> ランディングネット	
	ギャフあるいはネットの全長	m
	ギャフロープの長さ	m

	ボート名:
	メーカ一名:
	船の長さ[m・ft]
	m
	フリガナ

ボート <input type="checkbox"/> 使わない <input type="checkbox"/> 使った	船長住所: 千 フリガナ 乗組員氏名 乗組員住所: 千
--	--

	<p> 1. <i>What is the purpose of this study?</i> 2. <i>What are the research objectives?</i> 3. <i>What are the research questions?</i> 4. <i>What are the hypotheses?</i> 5. <i>What are the variables?</i> 6. <i>What are the methods?</i> 7. <i>What are the results?</i> 8. <i>What are the conclusions?</i> 9. <i>What are the limitations?</i> 10. <i>What are the implications?</i> </p>
--	--

ハカリ	はかった場所:
	ハカリのタイプ
	製造メーカー名
	保証を受けた最後の日付 (西暦)
	ハカリを保証した人あるいは代理店
ハカリ	はかった人 (ウエイマスタール)
	フリガナ
	氏名
	住所: 〒
ハカリ	計量立会人 (計入、除算、ウエイマスタール以外の者)
	フリガナ
	氏名
	住所: 〒
画像の証明 (議長以外の者、で ければ2名以上)	フリガナ
	氏名
	住所: 〒
	フリガナ
	氏名
	住所: 〒
	画像を証明する人数 人

申込料		サポート会費をのぞいて無料
○GIGA会員	
○GIGA非会員	
●日本誌	6000円/件（オリジナルのみ） （レビラ会員は無料）
●フィッシングリスト	500円/件
○非会員	
●オリジナル日本誌	10000円/件 （入金済みのレビラ会員は無料）
●フィッシングコンテスト 成人（中学生以上）	10000円/件
●フィッシングコンテスト ジュニア（16歳以下）	無料

※ 世界誌発行の権利を有する日本誌会員は5000円・50000円・60000円・60000円以上の会費が必要
 急ぎの発行とGIGAサポート会員であること。なし非会員であった方は、フィッシング部門の日本誌発行もよく参加。スキャンバック

●日本誌発行には申請が必要

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館 4F TEL. 03-6280-3950 FAX. 03-6280-3952

A close-up photograph of a large rainbow trout being held by a person. The person's hand, wearing a red and orange glove, is visible at the top left, gripping the fish's dorsal fin. The fish is lying on a dark, wet surface, possibly a log or a rock, with shallow water reflecting the surrounding greenery in the background. The fish has a silvery body with a pinkish-red stripe along its side and dark spots on its head and upper body.

実際の稼働開始は来年を予定しており、詳細はJGFAウェブサイトにおいて発表いたします。さまざまなカテゴリーの申請作業において、以前より負担の軽減が期待されますので、ぜひご活用ください！

東京および大阪の フィッシングショーに出展いたします

2024年1月19日(金)～21日(日)にわたって、みなとみらいパシフィコ横浜で開催される「釣りフェスティバル」および2024年2月2日(金)～4日(日)にインテックス大阪で開催される「フィッシングショー OSAKA 2024」の両方に、ジャパンゲームフィッシュ協会はブースを出展いたします。

例年大好評をいただいているライン破断機を持ち込んだノットコンテスト、各ジャンルの腕利きアングラータちによるトーク、昨年生まれたすばらしい記録の展示など、盛

りたくさんです。JGFAに所属して活動する有名アングラータとお話するチャンスもあるかも? 「いい釣りをいつまでも」のモットーの下、集まりましょう! 会場へのアクセスやオープン時間などは、各ショーの専用サイトをご確認ください。参加アングラータのトークショー・スケジュールなどはJGFAウェブサイトで事前に発表いたします。

<https://www.tsurifest.com/>

<https://www.fishing.or.jp/>



国際カジキ釣り大会の 日程が決まりました!

世界的に「釣れる大会」として大きな注目を集め、本年は参加107チームで37尾のビルフィッシュを釣り上げた国際カジキ釣り大会(略称JIBT)の来年度日程が決定しました。会場は例年どおり静岡県下田市、7月25日(木)～28日(日)の期間で開催されます。

詳細は今後、JGFAウェブサイト、およびJIBT専用ウェブサイトで発表されます。後者ではオンライン申し込みも受け付けており、これまでの映像アーカイブや結果表などにもアクセス可能。ぜひ一度覗いてみてください。これまでご出場の経験がない方も、チームで人数が集まればチャーターボートをご用意できますのでご検討ください! 海原を自在に泳ぐカジキの壮麗なファイトに加え、仲間たちとの楽しいパーティーなども、ぜひ体験していただきたいと思っております。

<https://jibt.jp/>



7年の時を経てクロカジキ再捕

2016年の真夏に茨城県の大洗沖でJGFA会員によって釣られ、The Billfish FoundationのTBFタグを装着のうえ再放流されたクロカジキが、本年の夏に台湾に近い石垣島沖にて、まぐろはえ縄にかかりました。推定体重は130kgから162kg（頭と内臓を除去したあとの数値）に増加していました。7年前の同時期には茨城県にまで北上していたこの魚が、今年は沖縄海域に留まっていたことになり、果たしてこれが海水温変化の影響なのか、行動のばらつきなのか、想像は膨らみます。カジキ類は、まさに大海原を旅する魚です。

2023年9月19日

JGFA関連・標識魚再捕結果のお知らせ

ジャパンゲームフィッシュ協会
釣魚師会

魚種名 クロカジキ

標識記号・番号

BF-474935

タグの形式・型

カジキ専用ゲートタグ(TBF)

	放流	再捕
氏名	田中 義彦 (長崎県大洗町)	高平 高 重 (鹿児島県)
住所	〒272-0023 千葉県大洗町	〒907-0023 沖縄県石垣市石垣 3番地1 合興会社ヤムエイ
電話	TEL 093-87-7443 FAX 093-87-7443	TEL 0980-87-7443 FAX 0980-87-7443
年月日	2016/8/7	2023/8/8
位置	大洗港大洗沖(34° 34'N, 140° 12'E)	石垣島沖(23° 08'N, 124° 33'E)
ボリクス		
文長	cm	cm
体重	130.0 kg (推定)	162 kg
漁法	トローリング	マグロ延縄

備考：本標識魚は、2016年8月7日の放流後、約7年経過したもので、特に想定地点を設け見かけの差違を計測し、水産資源研究(長崎)より提供された魚は、(内臓除去後)

西捕漁船者1		西捕漁船者2	
団体名	水産研究・教育機構 水産資源研究部	団体名	
氏名	青野 雄介	氏名	
住所	〒814-0213 長崎県長崎市多良見町1551-8	住所	
TEL	095-950-1699	TEL	
FAX	095-950-1767	FAX	



IGFAレップに感謝状

インターナショナル・ゲームフィッシュ協会 (IGFA)の創立以来、世界各地で任命されたレプレゼンタティブたちは協会の理念を伝え、スポーツフィッシングの理念と魚類資源保全の努力を続けてきました。

ボランティアとして世界各地で活動するレップの数は72カ国で200人を数えます。IGFAルールの普及、ジュニア釣り教室の開催、トーナメントの運営、記録申請のお手伝いなど、その活動はじつに多岐にわたり、日本国内でも7人が活動しています。

そのうち20年以上の活動歴を持つ人が2人、10年以上活動している方が4人となっており、全員がジャパンゲームフィッシュ協会の会員・役員です。今回、10年以上活動されている日本人レップ6名の貢献に対して、IGFAから感謝状が贈られました。

若林務さん(1989年10月就任)
東知憲さん(2003年6月就任)
原口泰典さん(2008年5月就任)
石丸益利さん(2010年2月就任)
長鋪毅一郎さん(2010年2月就任)
高橋一郎さん(2011年11月就任)



若林務さん



東知憲さん



原口泰典さん



石丸益利さん



長鋪毅一郎さん



高橋一郎さん

ASSOCIATE MEMBER LIST

賛助会員メンバーズ・リスト



賛助会員募集 「いい釣りをつつまでも。」をスローガンに、スポーツフィッシングの普及を目指すJGFAをぜひサポートしてください。

- 特典
1. 賛助会員主催のイベントを後援します。(ただし後援規定に基づくイベント)
 2. 実費プラス手数料で、会社パンフ、アンケートなどを会員に発送するDMサービスをご利用いただけます。
 3. JGFAイヤーブックに紹介記事が載ります。
 4. JGFA NEWS(年4回発行の会報)とホームページにロゴマークが載ります。
 5. 代表者と担当者の2名は、JGFA及びJGFAの会員として登録されます。
 6. 代表者は、JGFAのパーティーにご招待します。

会費 1口 100,000円(1口以上)

備考 代表者と担当者以外で、会員登録を希望する企業内の方は、年会費6,000円を加算いただければクラブメンバーと同様の特典が得られます。

問い合わせ先: JGFA事務局 ☎03-6280-3950

タグ購入代金カンパにご協力を

皆様がお使いのアンカー式スバゲティタグもダートタグSも、協会が購入する原価でセットあたり2000円します。年間500セットほど皆様に配布いたしておりますので、単純計算で100万円、ちょっとした金額です。そこで皆様にお願ひです。クラブ主催のトーナメント、パーティ、忘年会などの機会を捉えて募金箱を回し、「タグ&リリース活動資金カンパ」を行っていただけませんか。もちろん、個人や企業の皆様からのご寄付もよろこんでお受けいたします。ゲームフィッシュの生態解明のため、釣り人ができる大きな貢献であるタグ&リリースをこれからも継続し、私たちが資源保全に真剣であることを示すため、ぜひご協力をお願いいたします。お振込先の情報は以下のとおり、なにとぞご検討を。

銀行名: みずほ銀行 恵比寿支店

口座名: 「タグ アンド リリース活動資金」

口座No: (普) 1561275

タグ&リリース寄付者リスト

タグ&リリース活動資金にご寄付いただきましてありがとうございました。

心よりお礼申し上げます。引き続き募集しておりますので、ご協力くださいますよう、お願いいたします。(順不同・敬称略)

タグ&リリース寄付者リスト		
2023/8/28	長鋪 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2023/9/13	長鋪 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2023/10/2	杉本 晋之介(HOOKERS FC)	10,000
2023/10/19	瀧本 祥敬(NTP GAME FISH CLUB)	2,000
2023/11/13	第39回 東京ベイ・シーバス・ゲームフェスティバル	37,496
2023/11/15	長鋪 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
		合計: 106,496